

高校生と共に考える「生成AIとの付き合い方」

生成AI利活用セミナー in 北海道 - 新たな学びの可能性を創る -

2025年1月17日

CRESCO 

地域イノベーション本部
北海道開発センター



はじめに

- 生成AIの急速な発展と普及は、大人のみならず、高校生をはじめとした若年層の生活・教育の在り方にも変化をもたらしています。
- 利便性とリスクは表裏一体であり、これを踏まえた情報リテラシー向上が求められています。
- 本セッションは、「高校生ICT Conference 2024 in 札幌」の代表として全国サミットに参加した、市立札幌旭丘高等学校 山内琉矢さんにご意見をいただきながら、
高校生は生成AIの利活用に対する課題をどのように捉え、付き合っていこうとしているのか、我々大人に何ができるのか、一緒に考える機会にしたいと思います。



山内 琉矢 (やまうち りゅうや)

- 市立札幌旭丘高等学校 2年
- メディア局所属
- 「高校生ICT Conference 2024 in 札幌」の代表として東京でのサミットに参加。



八巻 正行 (やまき まさゆき)

- 株式会社クレスコ 北海道開発センター PM
- 一般社団法人LOCAL 理事
- 北海道情報セキュリティ勉強会 代表





目次

- 高校生ICT Conference とは
- 高校生が考える「生成AIとの付き合い方」
- まとめ・質疑応答

高校生ICT Conference とは



高校生ICT Conference とは

- 「高校生の声を政府に届けよう！」のスローガンのもと、ICTを取り巻く課題をテーマに、全国各地の高校生が議論し、意見をまとめ、関係府省庁に提言するカンファレンス。
 - URL: <https://www.good-net.jp/ict-conference/2024/>
 - 各地から選出された代表生徒が全国サミットへ参加し「高校生からの提言」として、総務省、こども家庭庁、文部科学省で発表する。
- 2024年度 熟議テーマ
 - 今、高校生が考える生成AIとの付き合い方**
 - 「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考える -**



高校生ICT Conference 2024 in 札幌

- 2024年9月29日(日) 11:00-17:00
- 今年度は 3校、14名の生徒が参加
- 参加生徒は各校混在のグループに分かれて議論した後、グループ毎に提言をまとめ、発表する。
- 参加生徒による投票により、代表生徒が選出される。





高校生ICT Conference in サミット

- 2024年11月3日(日) 12:30-17:00
- 全国から選出された代表生徒が東京に集り、高校生ならではの活発な議論が行われた。
 - 詳細は、安心ネットづくり促進協議会のWebサイトでレポート公開中。
<https://www.good-net.jp/ict-conference/2024/tokyo2024/>



画像引用：高校生ICT Conference 2024 Facebookページ より
<https://www.facebook.com/groups/127430214114289/posts/2609840249206594/>

最終報告会



- 2024年12月10日(火)
- 総務省、こども家庭庁、文部科学省において、高校生からの提言が発表された。
- 提言発表とは別に「豪州の16歳未満SNS利用禁止法」等、最新の話題についてディスカッションする機会も設けられた。



画像引用：高校生ICT Conference 2024 Facebookページ より
<https://www.facebook.com/groups/127430214114289/posts/2635703149953637/>

高校生が考える「生成AIとの付き合い方」



高校生から挙がった意見（札幌大会）

- 生成AIの活用方法
 - 知りたい情報を調べる
 - 膨大な情報を分類、分析、要約してもらう
 - 翻訳、会議の文字起こし
 - プログラミングや資料作成の補助
- 生成AIの課題
 - 誤った情報を生成してしまう
 - 意図的な誤情報の拡散、悪用
 - 意図せずとも誤った判定、偏った回答が生成されることがある
 - 著作権侵害（依拠性、類似性）や肖像権侵害のリスク
 - 利用者が正しく使いこなせていない



高校生からの提言（札幌大会）

- 教育・情報リテラシー向上
 - **AIを学校で学ぶ**
 - 道徳：AIを利用するうえでのリテラシー
 - 技術：実用的な利用方法の習得、情報の真偽を見極める訓練
 - **実際に体験することが大事**
 - 情報の授業で積極的に生成AIを取り入れる
 - 現実では難しいことも仮想空間でシミュレーション
 - **生成AI教室**
 - 小中学生や高齢者に向けて高校生が教える
 - 高校生同士の交流
- **AIと人間が身近となる社会が必要**



高校生からの提言（札幌大会）

- 法整備・制度・資格
 - **AIアドバイザー**
 - AIが出した回答を人間が評価する職業（資格制）
 - **AIライセンスの発行**
 - 15歳以上のみ発行、ライセンス所持者のみ利用を許可
 - **AI活用検定**
 - AIについて学ぶ意欲の向上
 - 企業が雇用するときの指標としても利用
 - **生成AIに関する法律**
 - 罰則・罰金の制定も含む



高校生からの提言（全国サミット）

- **新教育プログラムの設立**
 - 小学校：道徳
 - 中学校：技術
 - 高校：情報 I
- **生成AIに関連する法律の制定**
 - AIマークの導入
 - 生成系AIリテラシー向上法

高校生ICT Conference 2024

新教育プログラム

新教育プログラムの学校での具体案・・・

- 1. 小学校「道徳」**
年間2h×6年間＝12h
例) 生成系AIの著作権・個人情報・偽誤情報などについて
・ディスカッション
- 2. 中学校「技術」**
年間4h×3年間＝12h
例) 2時間分：座学
・生成系AIの基礎
・倫理的な問題
・AIの使い方と責任
・生成系AIの未来と社会での役割
例) 2時間分：実技
生成系AIを用いて
・文章作成
・画像生成
・問題解決や分析
・創作活動
- 3. 高校「情報 I」**
年間4h×1年間＝4h

• 22

高校生ICT Conference 2024

提言② 生成系に関連する法律の制定

- 1. AIマークの導入**
AIが生成したものにマークをつけ、偽情報・誤情報の拡散を防止
- 1. 生成系AIリテラシー向上法**
政府や地方自治体が独自に生成系AIの理解を深めるようなプログラム作成を推進する法
例) 「オンライン生成系AI教育プラットフォーム」
企業が自社社員に生成系AIに関する研修やワークショップを実施

• 23



イベントを運営してみた所感

- イベントに参加してくれた高校生たちは、生成AIが抱えるリスクを認識しており、多くの場合、学校での教育と何らかの制約（法整備等）が必要と考えている。
- リテラシーの高い一部の子供たちに限らず「全員が」生成AIとうまく付き合っていくためには、**義務教育課程での情報リテラシー教育が早急に求められる。**
 - インターネット、スマートフォン、SNS、いずれも、登場した当初は「子供には使わせるな」という議論があったが、結局は避けて通れないことがわかった。
 - むしろ、**利用させず知らないまま社会に出ることのほうがリスクであり、機会損失とされ、「リスクを知ったうえで使いこなす」ためにはどうしたらよいか啓発するよう、方向転換された。**
 - **生成AIについても、同じことが言えるのではないか。**

まとめ



高校生と共に考える「生成AIとの付き合い方」

- 生成AIは、私たちの生活・仕事・教育の在り方を大きく変える技術であり、様々な利便性をもたらす一方、まだまだリスクも存在します。
- そのリスクに対して、高校生たちも真剣に考えています。
- **「AIと人間が身近となる社会」**が目前に迫っている今、私たちも高校生の声に耳を傾け、**「誰もがうまく生成AIと付き合い合っていける社会」**の実現に向けて、それぞれの立場で取り組みを進めてもらえると思います。

質疑応答

Thank You



